

【提言】生涯学習センターを核とした地域との連携・協働について＜概要版＞

（第16期茨城県生涯学習審議会及び茨城県社会教育委員会議）

第14期生涯学習審議会等における議論から

＜令和2年度までの生涯学習センター＞

- ・生涯学習に関する情報提供・学習相談
- ・人材育成、学習機会の提供
→県民大学講座、生涯学習講演会
生涯学習フェスティバル 等

【課題】利用者の固定化、趣味・教養、余暇活動的

＜令和3年度から期待される機能・役割＞

- ・地域課題解決のための人材・団体の育成の推進
- ・学習機会の提供の見直し
- ・連携・交流の拠点
- ・人材育成・市町村支援

＜議論を受けた県の整理＞

- 【目指す姿】・知と人材のプラットフォーム
・学びの成果が地域課題解決につながる
- 【核となる3本の柱】・現代的課題へのチャレンジ
・地域のリーダー育成・交流
・若者のトップランナー育成

現行（令和3年度～令和7年度）事業の成果と課題

現代的課題へのチャレンジ

（課題解決チャレンジ事業）

現代的・地域課題について、解決に向けた人材育成、関係団体との連携・ネットワークの構築、地域住民が主体的にかかわることができる体制づくりを支援する。

【成果の一例】

- ・不登校支援団体に就職し活動を継続
- ・外国人支援団体の設立

【課題】

- ・事業の成果につなげるKPIの設定

（セカンドキャリア教育事業）

中高年の早期リタイアや定年退職後のキャリア、出産・育児後の社会復帰等、転職や復職、起業に関する講座等、第二の人生における職業を考える機会を提供する。

【成果の一例】

- ・資格取得に対する意識の向上
- ・学習団体を結成し学びを継続

【課題】

- ・他主体実施の類似する事業との差別化

地域のリーダー育成・交流

（地域の核となる人材・団体育成事業）

現代的・地域課題を解決していくために必要な研修等を実施することで、様々な場所で活動できる地域の核となる人材及び団体の育成を図る。

【成果の一例】

- ・地域活性化のイベント開催
- ・子ども食堂の設立

【課題】

- ・学びの成果を活かす場をもつ、対象を明確化した事業の実施

若者のトップランナー育成

（ヤングボランティア育成事業）

中高生を対象に、ボランティア活動における基本的な学習の場と機会を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を推進する。

【成果の一例】

- ・参加者の自主活動の展開
- ・センター事業と県事業の連動

【課題】

- ・継続活動するための場の確保

令和8年度からの生涯学習センターの方向性

現代的課題へのチャレンジ

（課題解決チャレンジ事業）

- 時代の流れに即したテーマの設定
⇒地域の実態に応じて弾力的に設定
- アウトカムを意識したKPIの設定
⇒受講者の変容を測る指標

（セカンドキャリア教育事業）

- 他実施主体との差別化
⇒専門的な学びへの接続
- 大学等が行うリカレント教育の情報提供
⇒「茨城の生涯学習」を活用

地域のリーダー育成・交流

（地域の核となる人材・団体育成事業）

- 対象を明確にした側面的な支援 ⇒フォローアップ研修、交流会 等
- 継続性の担保 ⇒多様なステークホルダーとの連携

未来を担う人材の育成

（ヤングボランティア育成事業）

- 気軽に立ち寄れる場の確保 ⇒児童クラブ、公民館、子ども食堂 等
- 多様な主体との連携 ⇒計画立案や場の設定等、win-winとなる関係づくり

新たに加える視点

事業相互の循環

- センターのコーディネート機能 ⇒学びの成果と活動を循環させる取組の充実
- 地域資源、地域課題の吸い上げ ⇒自分事として捉える意識の醸成、本質を見極める力を身に付ける
(今まで以上に地域に目を向ける)

取組の見える化（情報発信の強化）

- 社会教育分野の裾野の拡大 ⇒多様な主体を好循環の輪の中に取り込む
(民間、部局等での取組増加)
- 多様な媒体との連携・活用 ⇒「茨城の生涯学習」、SNS、公共放送、新聞等での情報発信を強化することで、地域から頼られる存在に